

平成 25 年度「新入生の生活に関する調査」

第5回 「どのような新入生と保護者が、学生寮を認知・希望しているか」

前回は「どのような新入生と保護者が奨学金を認知・希望しているか」についてご報告しました。その中で、新入生、保護者ともに、過去に奨学金の受給経験がある者、学生寮について認知している者ほど、奨学金を希望する割合が高いことが示されました。そこで、今回は新入生と保護者の学生寮の認知や希望についてご報告したいと思います。

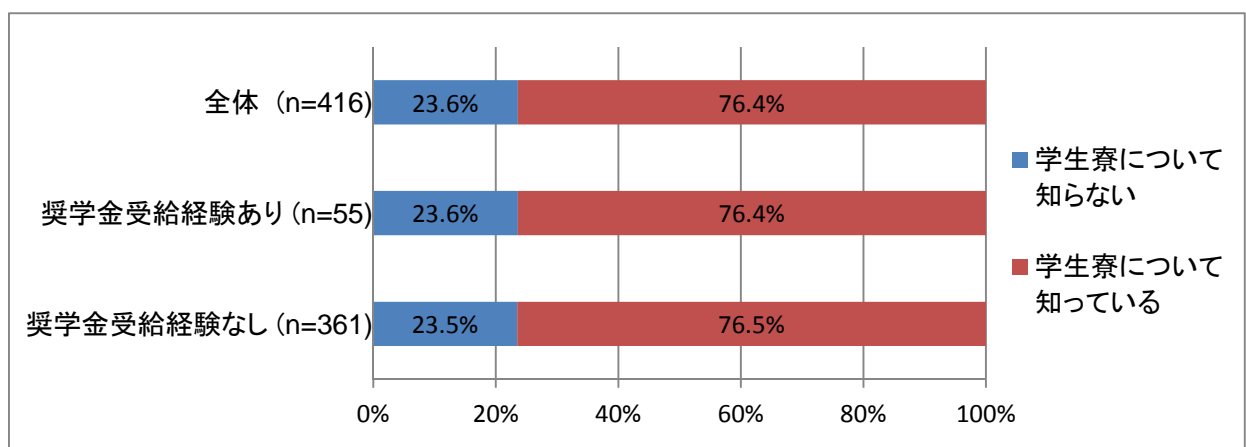
1. 新入生の結果

奨学金の受給経験のある者で、学生寮を知らない割合が増えている。

まず新入生の学生寮の認知度を調べました。また、過去に奨学金を受給した経験がある者となない者として、学生寮の認知度が異なるかを調べました。

その結果、全体では 76.4% の新入生が大学奨学金について認知していることがわかりました。昨年度と比べて、全体の割合では大きな変化はみられないものの、奨学金の受給経験のある者の中で、学生寮を知らない割合が、昨年度の 9.7% から今年度は 23.6% に増えていました。学生寮は主に自宅から通学が難しい学生が希望するため、奨学金受給経験があっても、学生寮を希望しないという学生もいます。しかし、学生寮を必要とする学生には、情報を周知する必要があると考えられます。

奨学金受給経験と学生寮の認知（報告書 p.48）



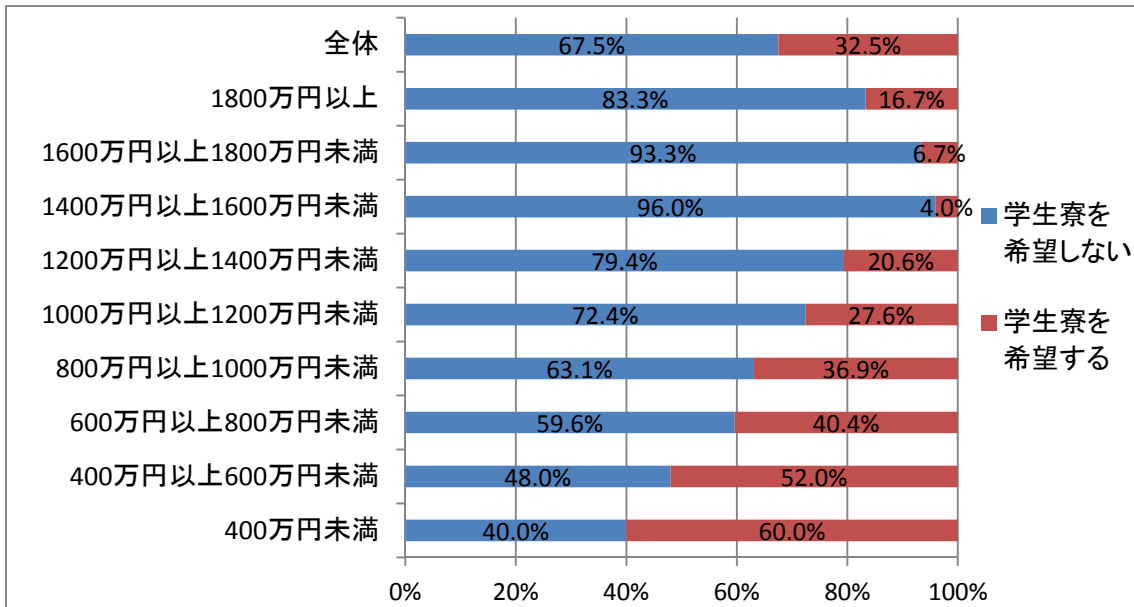
2. 保護者の結果

(1) 世帯年収が少ないほど、学生寮を希望している

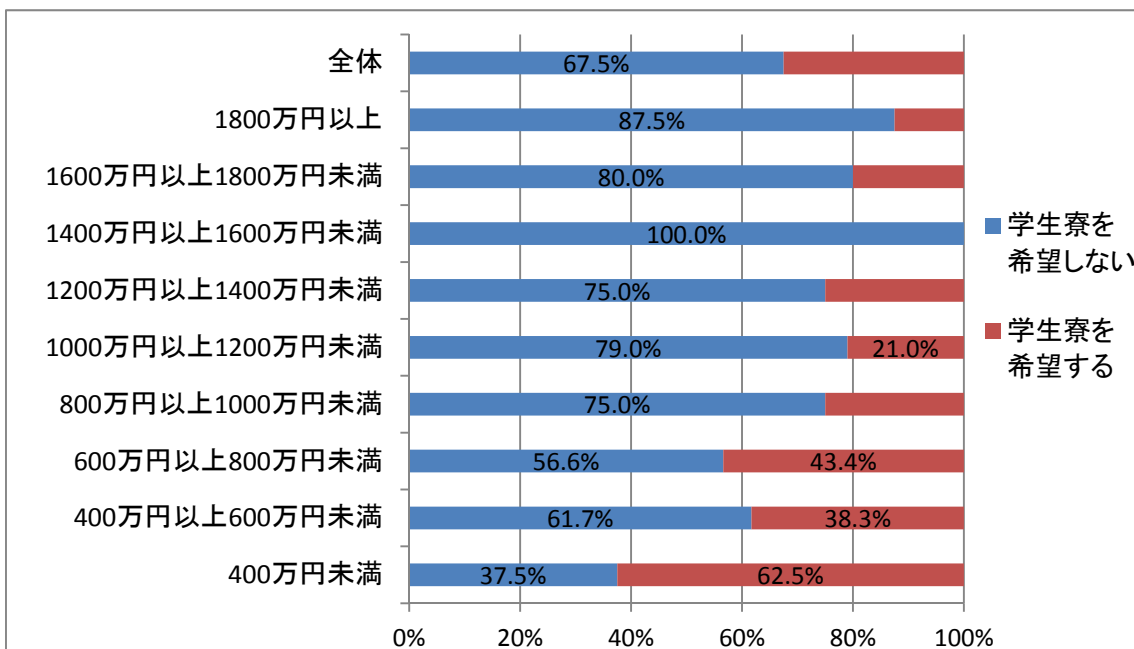
世帯年収と学生寮の希望の有無に関連があるかを調べました。

その結果、世帯年収が少ない場合は、学生寮を希望する割合が高く、世帯年収が多い場合は、学生寮を希望する割合が低いことがわかりました。昨年度は年収の多い少ないに関わらず、学生寮への入寮を希望していることが示されましたが、今年度は世帯年収が少なくなるにつれて、学生寮を希望する割合が増えているという結果となりました。また、家計支持者の年収との関連についても、世帯年収と同様の結果となりました。

世帯年収と学生寮への入寮希望（報告書 p.51）



家計支持者の年収と学生寮への入寮希望（報告書 p.52）

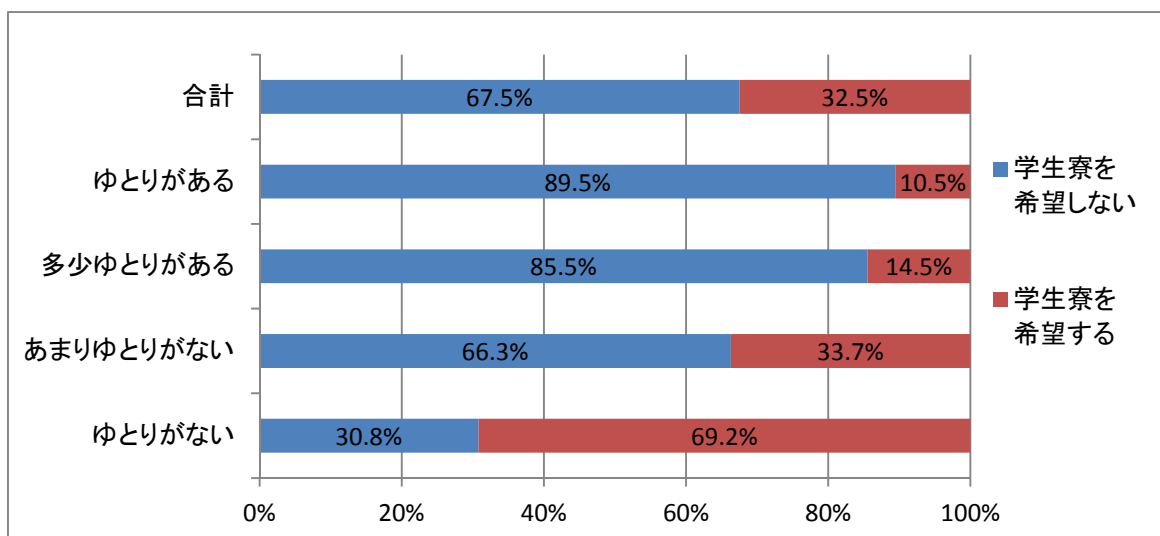


(3) 入学後の暮らし向きに余裕がないほど、学生寮を希望する割合が高い

入学後の暮らし向きと学生寮の希望の有無に関連があるかを調べました。

その結果、入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている場合は、学生寮への入寮を希望する割合が高く、ゆとりがあると感じている場合は、学生寮への入寮を希望する割合が低いことがわかりました。昨年度は入学後の暮らし向きの余裕のあるなしに関わらず、入寮を希望する者が多かったが、今年度は「あまりゆとりがない」と回答した33.7%、「ゆとりがない」と回答した69.2%が、学生寮を希望していることがわかりました。

入学後の暮らし向きと学生寮への入寮希望（報告書 p.54）



3. まとめ

奨学金の希望と学生寮の入寮の希望は一致せず、世帯年収・家計支持者の年収が低い者、入学後の暮らし向きにゆとりのない者が学生寮を希望することが示されました。自宅が遠方にある者と、通学範囲に在住している者とは、奨学金の希望、学生寮の希望の傾向は必ずしも一致しないと考えられます。大学において、奨学金と学生寮の提供は学生支援の一環として行われています。支援が必要な学生の傾向を把握することで、そのニーズに応える形での奨学金制度と学生寮の提供が行われるのが望ましいと考えられます。また本学は「国際学生宿舎」、「お茶大 SCC」、「小石川寮（大学院生向け）」と3つの異なる機能をもつ学生寮を設置しています。学生寮別に希望者の傾向を読み解くことは、今後の寮運営の参考になると考えられます。

「学生・キャリア支援センター *Research Report*」としてその一部を紹介いたします報告書は、学生・キャリア支援チーム（内線2646、gakusei@cc.ocha.ac.jp）で冊子入手できるほか、TeaPotからもPDF形式でダウンロードいただけます。

(<http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/handle/10083/53912>)